

第5号

発行年月：2012年7月



日本医療ソーシャルワーク学会ニュース

目 次

- | | |
|---------------|------------------------------|
| 1. 学会副会長あいさつ | 5. 論文作成アドバイス事業 |
| 2. 事務局長あいさつ | 6. 出版案内 |
| 3. 理事紹介 | 7. スーパーバイザー養成事業 |
| 4. 第3回広島大会関連 | 8. 学会誌投稿募集 |
| (1) 広島大会長あいさつ | 9. 2012年度の診療報酬と介護報酬の同時改定とMSW |
| (2) 広島にきんさい | 10. 学会ロゴマーク表彰 |
| (3) ドイツのMSW通信 | 11. 事務局からのお知らせ |

1. 学会副会長あいさつ

日本医療ソーシャルワーク学会 副会長 大垣 京子(福岡医療福祉大学)

会員皆様のご協力とご尽力のおかげで、来る7月7日・8日の両日、日本医療ソーシャルワーク学会第三回大会を広島で開催できる運びとなりました。本大会の主論題は、在宅医療の現場で医療ソーシャルワーカー（以下MSW）はどのような支援を提供できるか、ということです。周知のように、国は施設から在宅へ療養の場を移すべく政策を進めています。いうまでもなく、在宅療養を送る人たちが、安心して自分らしく生きるためには様々な支援が必要であり、中でも医療と社会福祉に精通した専門家の支援は重要です。MSWはそのような支援を提供できる存在でなければなりません。従来、退院支援を重点的におこなってきたMSWにとって、新しい課題が提示されていることになります。

この課題を達成するためには、MSWは、これまでの知見に加えて、多くの知識と新しい技術を身につけ、自己の意識を変革しなければなりません。容易なことではないとしても、お互いの切磋琢磨によってこの変動期を乗り越えることは十分可能です。

本学会は、医療現場で活動している実践家のための学会として、これまでも多くの実践家が有用な示唆を得られる場として機能してきました。今回の大会も、参加者がこの課題に応えるための実践的な手掛かりを得る機会となるように企画いたしました。

ドイツからシラー＝バイリッヒ博士をお招きして、ドイツにおける医療ソーシャルワークの実情についての講演をしていただくことにいたしましたし、我が国の状況については、在宅医療分野の第一人者であるお三方にリレー講演をお願いいたしております。さらに、ベテランの実践家によるワークショップも実施いたします。

会員の皆様がこれらの機会を新しい課題に取り組む一助として活用していただくことを期待いたします。どうか万障を繰り合わせてご参加くださるようご案内申し上げます。



2. 事務局長あいさつ

日本医療ソーシャルワーク学会 事務局長 竹内 一夫(兵庫大学)

研究会以来、本会の活動にご尽力いただいた阿比留さんが、勤務状況の変化によって、事務局長としての役務を継続することが不可能であるという事態が生じ、竹内がその事後処理にあたらせていただくことになりました。

これまでご苦勞いただきました阿比留さんのように、きめ細かい対応には自信がありませんが、学会事務局としての業務を停滞させるわけにはいかず、わたくしが緊急避難として、事務局長の任にあたらせていただくことになりました。精一杯努力をさせていただき、学会運営に支障をきたさないように実務を継続していくことと、事務処理等をしっかりと管理できるしかるべき人材の発掘と引き継ぎが、わたくしの役目と心得、与えられた仕事に取り組んでまいります。

不慣れなことが多々あり、学会員諸氏には、ご迷惑をおかけすることと存意ですが、寛容の精神で、温かくご支援を賜ればと存じます。

本学会も設立3年目を迎え、いよいよ基礎固めを終え、本格的な活動、研究の実績を固めて行かねばならない時期にさしかかっています。事務局体制も、見直し、また組織管理や事務局としての実務に明るい、新しい理事にも加わっていただき、この学会の活動がより充実し、皆様方にも、信頼され、安心して、学会活動に関わっていただけるよう、力を合わせて頑張ってみます。

皆様方のご意見で、よりよい事務局業務が遂行できるように重ねてお願い申し上げ、事務局長就任の挨拶とさせていただきます。

3. 理事紹介

専門職にふさわしいMSW養成のあり方を探る

横山 豊治(新潟医療福祉大学)

平成22年の福岡大会を機に「研究会」から「学会」へと発展的に移行するにあたり、理事のひとりとして学会運営に携わらせていただくことになりました。理事の役割分担の中では教育を主に担当し、MSWの養成課程をめぐる課題に学会として寄与できる道を探って行くという使命を負っています。その第一歩として今年度取り組む予定にしているのが、現場における初任者教育の実態と現場が求める卒前教育のあり方について、当学会会員の皆様からお伺いしようとするアンケート調査です。(9月頃、調査票送付予定)

皆様の職場では、新卒のワーカーが入職した場合、最初の担当ケースを任せるまでの間にどのような初任者教育を行っているでしょうか。初代ワーカーとして入職した、前任者との引き継ぎもなしに「ひとり職場」を手探りで乗り切った…というように独力で試行錯誤をしながら仕事を覚えた方もお

られるかも知れませんが、複数配置の職場では、先輩ワーカーの助言・指導のもと、それなりの準備段階を経て、「最初の担当ケース」を受け持つようになっているのではないかと思います。しかし、MSW業務を取り巻く目まぐるしい今日の医療情勢の中では、現場で新人ワーカーを丁寧に育てていけるだけの余裕がない—という声や、そもそも養成教育段階で長時間にわたる病院実習を経験して入職してくるコメディカルと比べ、社会福祉士養成教育を中心とする現在の大学教育ではMSW業務に要する専門的知識・技術の卒前教育が弱過ぎる—といった声も聞きますので、そうした現状を把握し、現場の皆様方の率直な声をもとにして、専門職にふさわしい養成システムのあり方を追究できればと考えていますので、何卒ご協力下さいますようお願い申し上げます。

4. 第3回広島大会関連

(1) 広島大会長あいさつ

—第3回日本医療ソーシャルワーク学会広島大会にてお待ちしております—

広島大会大会長 徳富 和恵(安芸太田病院)

東日本大震災から1年が過ぎました。広島では67年目の夏を迎えます。どちらからも発信されるメッセージのひとつは「忘れないでください」です。日常の生活や目の前の仕事に追われる日々であっても、心を寄せて過ごす時間を意図的に作り、継承していく必要があるのだと改めて思います。

今年の全国大会はそんな思いを持つ広島にて開催いたします。実行委員会を中心に各方面からのご支援を頂きながら準備をすすめています。

皆様のお手元には大会テーマを「医療ソーシャルワーカーの展望と確信～明日に向かってズームイン～」と冠した開催案内をお送りしています。社会情勢が大きくかわり制度改革が速い中においてMSWの今日から、そして明日から活躍すべきところはいかなるものか、足を地につけながら将来をみよう」との実行委員会の思いを込めて決めました。

1日目の記念講演にはドイツのノルトライン＝ヴェストファーレン州カトリック大学から副学長 Liane Schirra-Weirich

さんをお招きし、ドイツの医療ソーシャルワークの実情をご講演いただきます(通訳あり)。リレー講演では「在宅医療の広がりと展望」(仮題)を主題にコーディネーターを医療法人社団康明会の遠藤正樹さんをお願いしています。ご登壇いただくのは医療法人鉄蕉会亀田総合病院の小野沢滋先生、愛知厚生連江南厚生病院のMSW野田智子さん、市立岸和田市民病院のMSW和田光徳さんです。

2日目は会員からの演題発表、ワークショップ(カンファレンス、アセスメント、地域づくり、MSWの視点からの経営戦略)です。

詳細は学会ホームページ(<http://www.jsmsw.jp/>)からもご覧いただけます。年に1回の大会です。学会の理念である「MSW同士がお互いに支え合う」、「お互いに勇気づけ、元気づける研修会」を実感できる大会になることを願いつつ、より多くの皆様のご参加をお待ちしております。

(2) 広島にきんさい

—講演や研修でしっかり学んだあとの学会参加の楽しみ! 広島を堪能していただくために、観光とおいしい物をご紹介します—

【観光】

①平和記念公園

平和記念公園は、世界永久平和の願いを込めた公園です。今回、1日目の会場でもあるメモリアルホールは、原爆死没者慰霊碑や世界文化遺産に登録された原爆ドームとともに公園内にあります。レストハウス近くにある『平和の灯』には、弘法大師が宮島の弥山にて修行した時より1200年間燃え続けている『消えずの霊火』が用いられ、反核と恒久平和実現まで燃やし続けられます。原爆ドームは日没後にライトアップされます。懇親会の会場へは、公園が近道ですので、散策してみてもいいかもしれません。

②宮島

日本三景のひとつ、宮島。大河ドラマ平清盛の舞台としても注目されています。ユネスコの世界遺産に登録された厳島神社や、中心にそびえる弥山からの景色は天気良ければ伊藤博文も「日本三景一の真価は頂上の眺めにあり」と絶賛するほどのもの。ぜひ時間があればロープウェイもあ

村田 朱(広島逓信病院)

るので登ってみてください。平和記念公園のレストハウス前から、遊覧船に乗って宮島に行くコースがおすすめです。所要時間は約45分です。川面から見える広島の景色も風情がありますよ。

③呉

少し足をのばしてもいいと思われる方は、呉を観光されてみてはいかがでしょうか。(JR広島駅より約45分)てつのかじら館や大和ミュージアムや平清盛音戸の瀬戸ドラマ館などがあります。

【広島のおいしい食べ物・お土産】

- | | |
|-------------|----------|
| ①お好み焼き | ⑦広島菜の漬物 |
| ②広島風つけ麺 | ⑧あなご飯 |
| ③カキ醤油 | ⑨ちりめんじゃこ |
| ④レモンケーキ | ⑩熊野筆 |
| ⑤桐葉果(とうようか) | ⑪宮島のしゃもじ |
| ⑥もみじまんじゅう | |

他にも広島のおすすめを紹介しますので、大会のブログをぜひチェックしてください。

(3) ドイツのMSW通信

ドイツの社会福祉系大学関係者・MSWとの国際学術交流を目指して

三原 博光(県立広島大学)

2010年9月、県立広島大学とドイツのNWRカトリック大学が国際学術交流協定を結びました。NWRカトリック大学は、ドイツ西北部アーヘン市(Aachen)に存在し、社会福祉学部、看護マネジメント、宗教学部を持ち、約3500名の学生が学んでいます。日本医療ソーシャルワーク学会村上須賀子会長は、過去、2度、この大学を訪問し、大学・医療福祉施設の関係者との交流を持ちました。このような訪問を通して、徐々に日独大学関係者の交流が含まり、今回、7月に広島で開催される日本医療ソーシャルワーク学会にNWRカトリック大学バイリッヒ(Weirich)副学長がドイツのMSWの状況について基調講演を下さることになりました(写真左側女性とMSW会員との交流の様子)。バイリッヒ副学長には小児精神科医、大学の総長なども同行され、日本医療ソーシャルワーク学会関係者との交流を楽しみにしています。

ドイツでは、まだ、MSWの国家資格制度化はされていませんが、医療福祉機関でMSWの存在は周囲から評価され、患者とその家族のために積極的に支援活動を行っています。2012年2月にNWRカトリック大学の実習施設であるアレキシアナ(Alexianer)精神病院を県立広島大学関係者が訪問しました。この病院は市の中心部に位置し、精神障害者への入退院の生活支援を行っていました。病院には220名の患者が利用し、職員約500名、そのうち9名のMSWが従事していました。特に、この病院のMSWは、入院を希

望する患者との初回面接のなかで入院したその日から退院のことを考えて面接を行っているとのことでした。また、この病院では、患者に対して音楽療法、作業療法、芸術療法などによる治療支援が積極的に行われていました。患者の情緒的支援を重視した音楽療法、絵画や木工作業などの芸術療法、作業療法などの治療方法は、芸術に長い歴史を持つドイツ及びヨーロッパ諸国の特徴であるかもしれません。病院の院長並びにMSWは、日本医療ソーシャルワーク学会との共同研究・情報交換を希望しておりました。

過去、ドイツは、ヒトラーのナチス政権により、約30～50万人の障害者が断種の犠牲となり、約10万人の障害者が惨殺された悲惨な歴史体験をしています。このような歴史的影響からドイツの社会福祉施策はノーマライゼーションの発祥の地であるデンマークやスウェーデンなどの北欧諸国の取り組みと比べると遅れているかもしれません。しかし、ドイツは、第二次世界大戦後、奇跡的な経済復興・発展をなし、EU諸国で政治・経済においてリーダーシップを取り、社会福祉施策も着実に進めてきました。ドイツ独自の社会福祉施策としては、民生委員制度、公的介護保険、老人介護士制度があり、これらはわが国の社会福祉施策に大きな影響を及ぼしています。したがって、我々は、ドイツの社会福祉施策におけるドイツのMSWの活動についても多くのことを学ぶことができるのではないかと確信しております。

昨年9月訪問の際の交流会写真、左から2番目がバイリッヒ副学長、うしろは御主人



5. 論文作成アドバイス事業

論文作成アドバイス事業を利用して

高木 成美(広島市立広島市民病院)

この度、当事業を活用して学会誌に論文を投稿させていただきました。私にとって、論文を投稿することは、非常にハードルが高いことでしたが、アドバイザーの先生の丁寧な指導をいただくことにより、無事に書きあげることができました。

今回の論文は、自分が実際に支援したケースをエコロジカル・アプローチを用いて分析しました。事例をどのように分析すればよいのか、苦戦しましたが、実践から得られた内容を論文としてまとめることで、MSWである自分が何を根拠に支援を行ったのか、どのような視点でクライアントを支援しているのか、必死にケース対応しているときには気づかなかった多くの気づきを得ました。アドバイザーの先生にメールで論文を送らせて

いただき、構成の方法や分析の方法についてご指導いただきました。論文をアドバイザーの先生に見ていただくことで、論文作成を通して気付いた内容を精緻化し、より深い気づきに導いていただき、まるでスーパービジョンを受けているようでした。きっと、一人では論文投稿をすることは叶わなかったでしょう。論文作成アドバイス事業を利用して、現場のMSWが発表する機会を得られることは、医療ソーシャルワーク分野の実証研究を促進する意味でも意義深い取り組みと言えます。

今後も継続して、論文作成できるように事業を活用させていただきます。この場をお借りして、アドバイザーの先生に感謝申し上げます。

6. 出版案内

学会初の出版事業 ＊ ＊ 広島学会大会記念発行

会長 村上 須賀子(兵庫大学)

広島学会大会（7月7日・8日）当日発行を目標に単行本の編集を急ピッチで進めております。月刊誌「病院」（医学書院発行）で、2006年6月号より「医療ソーシャルワーカーの働きを検証する」とのタイトルで、キラ星の如く輝くMSW実践を連載していますが本年5月までの53人の実践を再録編集したものです。

医療ソーシャルワーカーたちは働き振りが「黒子」であるためか自己アピールをしたがらない人が多い。患者さんや家族から「あなたが病院に居てくれて助かった」「あなたに出会えて乗り越えられた」と感謝の言葉を受けても「いいえ、それは、ご自分の力ですよ」と彼らの底力に感服している。周りのスタッフに自分の働きの効果を吹聴することはない。「利用者中心の原則」から利用者の自己決定を尊重し、一步控えた、いわば「黒子」のような働き振りが身についているからだと推測します。

私は、ことあるごとに医療ソーシャルワーカーの働きをアピールし、未設置病院にも医療ソーシャルワーカーを売り込む、「MSWセールスウーマン」を自認しています。

この愛してやまない医療ソーシャルワーカー職をなんとか世に広める手立てはないものかと考えあぐねているところに、医学書院の月刊誌・病院に連載枠をいただきました。「医療ソーシャルワーカーの働きを検証する」とのタイトルで医師を始め病院関係者に医療ソーシャルワーカーの活用を

拡充していただくことを願って2006年6月号よりスタートしたのです。当初、連載期間は一年間くらいを想定していましたが、ところが、幸いにも好評を得て連載は現在も継続中です。そのようなわけで連載の執筆者を探しています。このニュースを読まれた方から「私の実践を」と自薦を、また「あの人の実践を」と他薦など情報をお知らせいただきたいものです。

月刊誌「病院」の購読料は高く、MSWが手に取りにくいこと、雑誌の中に記事が埋もれてMSWが目にしにくいことなどから、以前より連載を単行本にするようにとの要望をいただいていた。しかし自費出版の経費も捻出できず年月を重ねました。この度、医学書院の、「医療福祉総合ガイドブック年度版」で長年お付き合いのある看護編集部の北原拓也さん、元制作担当者の武田誠さんと連載担当の松永彩子さんの熱意と御尽力でやっと陽の目を見ることになりました。

経費の関係で頁数を抑える必要があったことと、より広い一般読者に医療ソーシャルワーカーの存在を知って、活用して頂きたいという意図で、現場の実践を主に再録しました。他職種・他機関の執筆者からいただいた、活用、連携の有益性のフィードバックコメントと研究者の報告は再録していません。こうした部分も読みたいと希望される方は連載の各号の別刷りが事務局にありますので御連絡いただければ実費でお届けいたします。

7. スーパーバイザー養成事業

ご存じのように日本医療ソーシャルワーク学会は、臨床現場に足場を置く現役ワーカーと研究者が共に、医療ソーシャルワークの研究と実践の発展を願って設立されました。これまでもブロック研修など、実践力アップの研修を行ってまいりましたが、今年度から、このような従来の研修に加え、職場で、地域で、よりよい支援が提供できるように、また、各地の初任者ワーカーからの声にある、指導者も少なく、実践に自信を持って取り組めないという声に対応するために、「学会員の身近な所にスーパーバイザーのいる実践現場を」ということを実現するために、2日間という限られた時間の制限の中で、個別スーパービジョンとグループスーパービジョンの技術を習得していただくために、体験学習を中心にプログラム化した、スーパーバイザー養成研修を実施することにいたしました。参加者一人一人がスーパーバイザーに支えられる事がどのような変化を自己の中に生じさせるのか、ま

竹内 一夫(兵庫大学)

た一人の専門職を支えるのがどれほどのエネルギーと配慮を必要とするかを学んでいただくとともに、第三者的に自己のスーパーバイザーとしての動きを確認することで、研修での学びをより実感を持って確認していただけるものとなるようにプログラム化しています。

当面各ブロックを対象に、各医療機関での指導者、またこれから後輩の指導に当たることになるという方々（おおよそ経験年数10年程度）を対象に、スーパーバイザー養成事業の展開を図っていきます。参加者の経済的負担を極力減少させ、学習効果を高めるという意味から、30人から、50人程度の参加者数を限度としての実施が望ましいのではと考えています。医療ソーシャルワーク学会員だけの限定研修です。多くの方のご参加をお待ちしています。

8. 学会誌投稿募集

みなさま！『医療ソーシャルワーク研究』に投稿をお寄せください！

黒岩 晴子(佛教大学)

本誌は日本医療ソーシャルワーク学会の機関誌であり、医療および福祉の向上、人権の擁護に貢献し、医療ソーシャルワーク実践と理論構築に寄与することを目的としています。厳しい現代社会を生きる患者や家族の療養や生活の状況、それら解決すべき諸課題に向き合っておられる医療ソーシャルワーカーの日頃の実践や研究をぜひお寄せ下さい。医療ソーシャルワークに関する「論文」や「実践報告」「事例報告」「研究ノート」「調査資料」「書評」など、原則として未発表であれば結構です。多彩な投稿をお待ちしております。

現場実践を続けながら大学院に進学されている方もおられると思います。働きながらの研究は大変だと存じますが、現場実践からの研究と実践の理論化は本学会の重要な課題です。ぜひ、その労作を投稿してください。ところで、卒業論文を書いて以降、論文を書いていないからと投稿を躊躇され

ている方がおられましたら、「論文作成アドバイス事業」の利用をお勧めします。経験豊かなサポーターのアドバイスを受けることができますので、ぜひ、チャレンジしてください。どうぞ、お気軽に編集委員会にご相談ください。

この度、ISSN (International Standard Serial Number、国際標準逐次刊行物番号) を取得しました。今後、投稿する際には、タイトルの和文標記に加え英文標記もお願いします。2012年度からの編集は黒岩晴子（佛教大学）、竹内一夫（兵庫大学）、田中剛（恵生会病院）、和田光徳（市立岸和田市民病院）の4名で担当致します。どうか、よろしくお願い申し上げます。ご意見やご感想もお寄せ下さい。

9. 2012年度の診療報酬と介護報酬の同時改定とMSW

—どう読む? 今回の改定。MSWの働きどころは?—

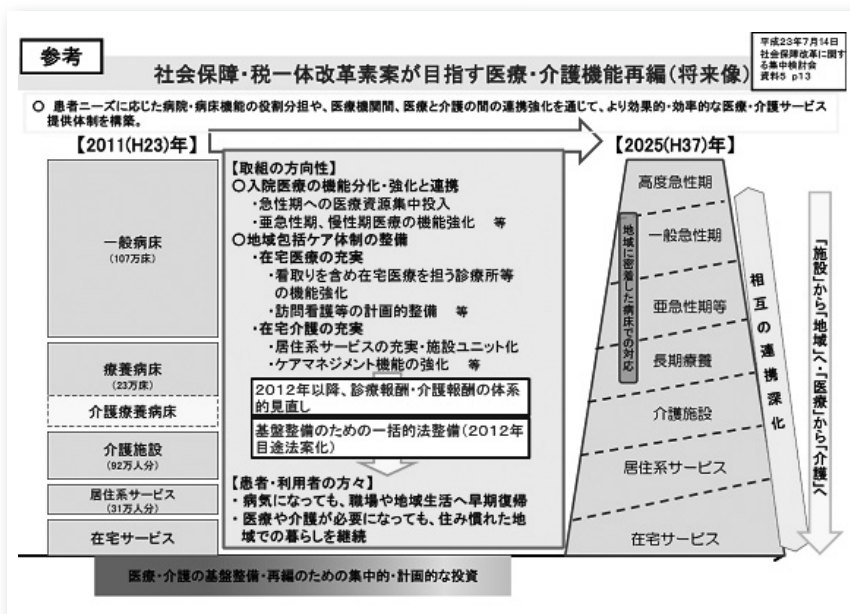
平成24年度の診療医報酬、介護報酬同時改定は、「社会保障・税一体改革成案」実現と、平成20年11月に出された社会保障国民会議の最終報告にある「2025年のあるべき医療・介護の姿」を念頭に計画が進められている。この具体的な検討内容ははぶくが、「患者ニーズに応じた病院・病床機能の役割分担や、医療機関間、医療と介護の間の連携強化を通じて、より効果的・効率的な医療・介護サービス提供体制を構築する」という方向で進められている。文末の参考資料に挙げたように、今から13年後までを見通し、診療報酬改定と、医療制度改革、介護保険制度改革がセットとして行われることを明示したものである。

今回の改定でいくつかの施設基準に、社会福祉士が書き込まれたが、その目的は将来の医療と介護の連携を見据えたところにあるあると考えられる。介護保険法の改定でなされた地域包括支援センターの配置専門職に、社会福祉士が記されたことと同じ流れ、すなわち一部の医療施設の地域での介護施設化への備えと、相談機能の取り込みというところであろうが、それならば疾病や医療に十分な知識を持ち、経験を持つ医療ソーシャルワーカーが配置されるべきであろう。

しかし、よく内容を検討すると、今回の改定には我々MSWが十分のその実力を発揮できる業務内容が新設されたことがわかる。それが「患者や家族への相談支援体制の充実」（詳細な入院診療計画の作成し、入院7日以内に退院困難患者の抽出を行い、退院困難患者への調整を行うことが内

容の中核）である。これらのためには患者や家族の相談に的確に乗り、それらの情報をもとに、効果的な退院調整を行える部門が必要となる。今回の改定の目指すところは、さきの「社会保障改革に関する集中検討会議」の2025年度の将来像をにらんだものであり、「施設から地域へ・医療から介護へ」という大きな流れに沿う支援がここでは求められる。詳細な入院診療計画には退院を見据えて効率的効果的に入院期間を活用することが求められ、そのためには患者の詳細な家族関係や持てる能力、生活歴が不可欠な情報であり、MSWは自ら集めたこれらの情報と医療情報を併せ持ち、患者家族の問題を全人的なレベルで整理し、療養生活の支援や、退院に向けての支援を行っていく必要がある。このポイントに、まさにMSWがこれまで培ってきた入・退院支援でのノウハウを持ち込むことができる根拠があるといえよう。またこのノウハウを持ち込まなければ、医療と福祉を統合的に見据え、患者、家族のニーズを的確に把握し、地域資源を活用しながら早期退院へ向けての支援を組み立てることはできないのだから。

退院係と卑下するのではなく、むしろ「施設から地域へ、医療から介護へ」という流れを、患者・家族のノーマライゼーションへの道付と積極的にとらえ、積極的にMSWの専門性を世に問うていくべき時が来たと捉え、より精度の高い、効率的で、効果的な医療ソーシャルワーク支援に取り組んでいくのではないか。



10. 学会ロゴマーク表彰

学会マーク入選のお知らせ!

奥村 晴彦(大阪社会医療センター)

日本医療ソーシャルワーク学会のマークが、文字を情報伝達の手段とするデザイン作品を公募し、優秀作を掲載する「日本タ

イポグラフィ年鑑2012」に入選しました。学会は、今後もマークとともに飛躍していくことでしょう!



日本医療ソーシャルワーク学会

11. 事務局からのお知らせ

【会費納入のお知らせ】

- 今年度(平成24年度)より、年会費が5,000円となっております。
お間違えないよう、2012年12月31日までにお振り込みください。
- 過年度分の年会費納入がお済みでない方がいらっしゃいます。
お急ぎお納めくださいますようお願いいたします。

郵便振込口座記号番号 : 01760-2-140617

加 入 者 名 : 日本医療ソーシャルワーク学会

納入の際は、通信欄に「平成〇年年会費」とご記入ください。

財政的に、厳しい状況での学会運営となっております。

学会事業推進のため、皆様のご理解・ご協力よろしくお願いいたします。

お問い合わせ先: 日本医療ソーシャルワーク学会 事務局(竹内・森崎)

e-mail: takekazu@hyogo-dai.ac.jp F a x: 079-427-9928

編集後記

今年度から、学会ニュースを担当させていただくことになりました、広島市民病院の高木です。広島では、7月の学会に向けた準備の真っ最中です。学会が盛りあがるようなニュ

ース作りを心がけ、広島大会特集を組ませていただきました。七夕の日、広島で皆様にお会いできることを楽しみにしています。

発 行 : 日本医療ソーシャルワーク学会
(The Japanese Society of Medical Social Work)
編 集 : 日本医療ソーシャルワーク学会 広報担当
印 刷 : 広島中央印刷株式会社
事務局 : 〒810-0001 福岡市中央区天神1-3-46
済生会福岡総合病院 医療相談室
T E L : 092-771-8151 FAX : 092-716-0185
U R L : <http://www.jsmsw.jp>
E-mail : jsmsw.secretariat@jsmsw.jp